

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月16日

### 【評価実施概要】

事業所番号	870102548		
法人名	株式会社 サンパル		
事業所名	小吹ケアセンター		
所在地	水戸市小吹町705-8 電話 029-305-6800		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年11月27日	評価確定日	平成20年6月16日

【情報提供票より】 (平成19年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	13 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 13 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り 2階建ての1. 2階部分 延床面積 1,362.89㎡ 1室当たりの面積 12.83~13.0㎡		
------	---	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(50,000円)	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 700 円
	夕食	600 円	おやつ 円
	または1日当たり	1,600 円	

### (4) 利用者の概要(平成19年10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5	要介護2	5		
要介護3	5	要介護4	1		
要介護5	2	要支援2	0		
年齢	平均 78 歳	最低	52 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人長福会 ふくもと内科クリニック・米川歯科医院
---------	----------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は「地域の力」になりたいとの思いから、「住み慣れた地域の中で利用者の残された力をいかし暮らしの喜びと自信を持って安心した生活支援をする」との理念を職員とともに実践している。  
職員は常に利用者に寄り添い、声かけをしながら日常生活をともにしている。  
ホーム内には可愛い売店があり、懐かしいお菓子類も置いてあり、利用者の目を楽ませている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 玄関、その周りの家庭的な雰囲気づくりに努めるとともに、食事の支援等についても前回の評価から改善している。 施錠については再度検討することが望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は一部の職員で行われ、全職員で取り組むには至っていないので、管理者は評価の意義や目的を全職員に伝えるとともに、全員で自己評価に取り組むことが望まれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、地域の環境整備委員会会長・行政関係者・利用者・家族・施設関係者等で構成し開催しているが施設からの状況報告を行うのみで、委員と意見交換をするまでには至っていないので、地域との関係を密にするためにも、地域の方に運営推進会議の委員に参画いただくとともに、活発な意見交換を行うことが望まれる。 市が主催する会議等での関わりはあるが、ホームから積極的に働きかけるには至っていないので、地域密着型サービスを利用者に提供するためには市との連携が重要なので、ホームから積極的に働きかけることが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員は利用者の暮らしぶりや健康状態を毎月報告している。 面会時には近日の状況を報告している。 金銭管理状況は必要に応じて領収書を添付して報告している。 重要事項説明書に苦情等申立先を明確にしている。 施設内に意見箱を設置するとともに介護相談員を受け入れている。 業務日誌と苦情相談記録を分けて管理することを提案する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの夏まつりに地域の人々と利用者が交流しているが、ホームから積極的に働きかけるには至っていない。 運営推進会議等で委員からの意見を参考にするなど、自治会・老人会等と交流することを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者はホームが地域の力になりたいとの想いで「住み慣れた地域の中で残された力を活かし暮らしの喜びと自信を持った安心した生活」を理念に利用者を支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は定例会や朝のミーティングなどで理念を共有している。 利用者が家庭的で楽しい雰囲気の中で生活できるよう支援している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの夏まつりに地域の人々と利用者が交流しているが、ホームから積極的に働きかけるには至っていない。	○	運営推進会議等で委員からの意見を参考にするなど、自治会・老人会等と交流することを期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は前回の外部評価の結果を基に生活支援の改善に取り組んでいる。 自己評価は一部の職員で行われ、全職員で取り組むには至っていない。	○	管理者は評価の意義や目的を全職員に伝えるとともに、全員で自己評価に取り組むことが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域の環境整備委員会会長・行政関係者・利用者・家族・施設関係者等で構成し開催しているが、施設からの状況報告を行うのみで、委員と意見交換をするまでには至っていない。	○	地域との関係を密にするためにも、地域の方に運営推進会議の委員に参画いただくとともに、活発な意見交換を行うことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する会議等での関わりはあるが、ホームから積極的に働きかけるまでには至っていない。	○	地域密着型サービスを利用者に提供するためには、市との連携は重要なのでホームから積極的に働きかけることが望まれる。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせて報告をしている	職員は利用者の暮らしぶりや健康状態を毎月報告している。 面会時には近日の状況を報告している。 金銭管理状況は必要に応じて領収書を添付して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情等申立先を明確にしている。 施設内に意見箱を設置している。 介護相談員を受け入れている。	○	業務日誌と苦情相談記録を分けて管理することを提案する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム内での職員の異動は必要最小限の範囲で行っている。 管理者は職員の離職防止のため、職員間の問題の早期解決に努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の段階に応じて外部の研修受講ができるよう体制を作っている。 研修報告は会議を通して職員間で共有している。 職員は働きながら、その都度介護支援専門員から、指導・助言を受けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員はデイサービスやショートステイを利用しての利用者を介して他の施設の職員と交流している。 茨城県グループホーム連絡協議会に加入している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人の施設見学を実施している。 サービスを開始するにあたり、管理者・職員が利用者の自宅を訪問するなど事前調査を十分に行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は団子作りなどをする際に利用者から作り方を聞いて参考にしている。 また、利用者から昔の漢字の書き方、読み方を学んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の生活歴を把握するとともに、日々利用者に関わるなかで、利用者の声、表情の変化などで意向等を把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員全員で検討し、本人・家族等から希望、意見を聞き作成している。	○	介護計画は家族等にも説明し理解を得ているが、計画書に家族の確認印を求めることを提案する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直している。また、利用者の状況の変化に応じて本人、家族等に説明して見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の自宅への外出や外泊の際、家族の希望で移送を行っている。 病院への付き添いや見舞い等を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、本人、家族等の希望にそって引き続き支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態が重度化した場合や終末期のあり方について、職員間で十分に話し合うまでには至っていない。	○	利用者の重度化、終末期の対応に関するマニュアルの作成が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の生活歴を把握しながら、個々に対応している。 個人情報 は所定の場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の朝の体調を見ながらその日の過ごし方を判断している。 体操やレクリエーション等の参加は本人の意思に任せている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の後片付けは行っているが、食事の準備はしていない。 食事は職員と共にしているが、会話が少ない。	○	利用者は配膳されるのを待っているだけでなく、職員のサポートのもと準備に関わっていくことが望まれる。 職員は楽しく食事をするための雰囲気づくりをすることが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員は曜日や時間を固定することなく夕方に入浴するなど、利用者の希望にそった入浴支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	音楽の好きな利用者はピアノをひきながら、他の利用者と一緒に歌を楽しんでいる。 そろばんやぬりえなど、利用者が楽しんで生活できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を好む利用者には散歩、買い物、外食等の希望にそった支援をしている。 外出を好まない利用者にもドライブを促し、車窓から季節感を味わえるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの入り口はテンキーで施錠し、職員は利用者の状況を見ながら対応している。	○	部屋から出たいとき、職員の様子に気を遣う利用者の気持ちを考えたうえ、再度、施錠解除に向けた検討が望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間、夜間を想定した避難訓練を年数回行っているが、2Fの避難経路を明確にするには至っていない。	○	エレベーターの使用ができなくなった際、非常階段の使用が困難な利用者の対応を検討するとともに、訓練の充実が望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分摂取量を把握するとともに記録に残し、状況を確認しながら適切なケアをしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の大きな窓から外の様子がよく見渡せ、四季の移り変わりを味わうことができる。 利用者が以前愛用していたピアノを居間に設置し、利用者が歌うときの伴奏に役立っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が以前使用していたダンス・飾り棚・多くの愛読書等を持ち込み、居心地のよい居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。